

# 広報あらお 67年間

~ Public Relations 67years Trajectory ~

## の軌跡 広報あらお 1500号到達記念特集

### 67years Trajectory

#### Chapter1

広報あらお 67年の歴史を見つめる

~ Legacy of Public Relations ~

広報あらおは平成29年9月号で1500号を迎えました。第1号である昭和25年5月15日号からの67年間の歴史の中で、さまざまなものを伝え、社会の変化とともに自らも変化してきた広報あらお。67年の軌跡の中で、どんな情報が伝えられてきたのでしょうか。



1972 (昭和47年)  
7月10日号 (536号)



1972 (昭和47年)  
9月15日号 (541号)

昭和47年7月23日にオープンした市民プールを特集した号です。5つのプールに夜間照明なども完備されていたため、記事の中でも「豪華版」との記載があります。夏休みを市民プールで楽しく過ごした記憶がある人も多いのではないのでしょうか。同年の9月15日号には、「第1回水上カーニバル」開催の記事。市民プール内で行われていた夏祭りのようで、水中ゴルフ大会や男女の水着コンテストなどが行われていました。プールを会場にするなど、斬新なこのイベント。現代に復活しても面白いかもしれません。



1975 (昭和50年)  
3月1日号 (597号)

昭和48年にスタートした市民マラソン大会が、この号で初の表紙を飾りました。当時の参加者は1,100人ほど。現在も多くの市民に愛されているイベントで、ことし1月の大会では1,600人ほどが荒尾路を駆け抜けました。



1975 (昭和50年)  
9月1日号 (609号)

昭和48年9月からの八幡住宅団地の開発が特集されています。昭和40年から開発が始まった桜山住宅団地に続くものです。以前は田畑や山林だった場所が住宅街に変貌し、一つの新しいまちが形づくられました。



1983 (昭和58年)  
11月15日号 (799号)  
資源ごみのリサイクル事業が有明校区をモデル地区として始まることを特集しています。熊本県内では先進的な取り組みで、多くの注目を集めました。その後、市内全域に広がり、ごみの減量化に貢献しています。

こちらのページに掲載できなかった記事については、裏表紙に広報紙特集の番外編として掲載しています。ぜひご覧ください。



1964 (昭和39年)  
10月10日号 (269号)

表紙には、「待ちに待った東京オリンピック開幕!」とあります。この号の発行日と同じ10月10日に開幕した東京オリンピックに市民総出で祝福ムードであったことがうかがえます。当オリンピックで、日本選手団は金メダル16個、銀メダル5個、銅メダル8個の合計29個のメダルを獲得し、アメリカ合衆国、ソビエト連邦に続き世界第3位でした。



1968 (昭和43年)  
7月10日号 (394号)

海水浴客で埋め尽くされた写真を背景に「海ひらく」の文字。荒尾海水浴場の海開きをお知らせしています。場所は南荒尾駅近くの海岸でした。当時は海水浴が盛んであったようで、何度か表紙で登場していますが、昭和40年代後半~50年代前半には荒尾海水浴場は無くなりました。今では荒尾の海のレジャーといえばマジャク釣りなどを連想する人が多いかもしれませんね。



1970 (昭和45年)  
8月1日号 (468号)

2014 (平成24年)  
4月号 (1435号)

1992 (平成4年)  
1月1日・15日合併号 (986号)

1990 (平成2年)  
4月1日号 (945号)

1987 (昭和62年)  
4月15日号 (877号)

1963 (昭和38年)  
9月1日号 (223号)

1953 (昭和28年)  
6月18日号 (69号)

1950 (昭和25年)  
5月15日号 (1号)



月2回の発行から月1回の発行へと変更。現在に至る。



表紙・裏表紙を初のカラー化。実際は昭和62年1月1日・15日号がカラーなのですが、編集後記には「印刷所のご厚意により」との記載があり、非公式なもののような感じです。以後、一部の年を除き毎年1月1日・15日号のみカラーとなり、平成22年4月15日号からは表紙・裏表紙が毎月カラーでの発行となりました。



B4判サイズからA4判サイズへ変更となった最初の号。この頃、行政文書も世界基準に合わせる動きでA4判へと変更になっていきました。



現在も続く人気コーナー、小学生の題字募集の企画がスタート。応募総数は72点でした。



昭和33年から昭和35年にかけて2回の発行から月1回の発行へと変更されています。(正確な時期は不明)そしてこの号から月3回の発行になり、昭和47年7月まで続いた後月2回へと戻りました。一カ月の発行回数としてはこの時期が最大でした。



「広報あらお」へ名称変更してから現存する最古の号。これ以前の号が欠落しているため、名称変更の時期は不明。裏表2ページのタブロイド版で、回覧印を押すマス目があるため、全戸配布ではなかったようです。



「荒尾市報」という名称で第1号が創刊。B5版サイズほどの裏表4ページで月2回発行。「荒尾市報は市当局と皆さんとをつなぐ唯一の連絡機関」との記載もあり、市政の情報源としての存在の重要性がうかがえます。

広報あらおの歩み